行　政　視　察　報　告　書

教育民生委員会 行政視察		令和元年７月２４日（水）～７月２６日（金）
視 察 先 及び 調査事項	郡山市	大安場史跡公園の整備と文化財の活用について
	文化財活用センター	文化財活用センターの取組みについて
	調布市	不登校特例校の取組みを中心とした不登校児童生徒に対する支援について
	八王子市	⑴　不登校特例校の取組みを中心とした不登校児童生徒に対する支援について ⑵　市立中学校における夜間学級の取組みについて

１ 調 査 結 果

（１）実施日　令和元年７月２４日～７月２６日

（２）出席者　小林あや、上條敦重、上條一正、内田麻美、塩原孝子、今井ゆうすけ
中島昌子、上條俊道、山内　亮、永原浩希

（３）郡山市大安場史跡公園（令和元年７月２４日）

大安場史跡公園には、東北で一番大きな前方後方墳を中心とした大安場古墳群と古墳について学べるガイダンス施設がある。敷地面積は約 6.5ha で、約 20 分～30 分で一周でき古墳について学びながら楽しむことができる。時間が無くなり挨拶も質疑応答も出来ず慌しい視察であったが、概要は把握することが出来た。

（４）国立文化財機構　文化財活用センター（令和元年７月２５日）

国宝や重文などのうち展覧会や展示などで公開されるものは約 1.5％にすぎない。海外・地方からの展示協力依頼や文化財の貸与などの依頼にあたっての相談に応えきれていない現状に対して、センター機能を強化したいくつかの事業をレクチャーし、博物館内を見学し松本市宮淵出土の重文（長保 3 年 1001 年　年記のある啓としては現存最古）の「銅蝶形啓」も見る機会に恵まれた。

（５）調布市立第７中学校「はしうち教室」（令和元年７月２５日）

H30 年４月に開校した「はしうち教室」まだ開校１年生で、具体的な成果は少なく課題も多い。現在小学生３５名、中学生１９名が学でおり、特色としては近くにある「東京学芸大学」との連携し共同研究も行い生徒だけではなく保護者の為の集いも実施しながら支援を継続している。調布市としては不登校児童生徒は増加しているが、対策支援をスタートさせ右往左往している自治体の取り組みを聴取できたのは収穫であった。

（６）八王子市立高尾山学園（令和元年７月２６日）

H16 年４月開校した「高尾山学園」は現在民間出身の校長を迎えて、１５年の蓄

積に加え体験を重視した柔軟な教育課程を中心に、独自の支援策を実施しており教師と市の支援チームが共同で一人一人の児童生徒に対して不安の解消や、クリエイティブなカリキュラムの創出をしながら支援に取組む環境はかなりレベルが高く市の予算もかなり（年間約 5000 万円）組んで支援対応をしている。また卒業後の追跡もしており理想的な取り組みを体験した収穫は大である。

（７）成果・所感等

郡山市駅前からタクシーで 20~25 分で公園に着く。国指定史跡大安場古墳の中で、中心となる１号墳は「前方後方墳」で全長約 85m 約 1600 年前に造られた古墳に登り、調査当時の説明を受ける。古墳から出土した副葬品などは、ガイダンス施設内の展示室にコーナーを設けて展示されている。

古墳の頂上からは公園全体が見渡せる。調査以前に分譲された古墳脇の住宅地も本来は古墳群に含まれていたに違いないし、松本市の弘法山周辺の環境に似ていると感じたのは自分だけか。

公園内には、体験広場、冒険広場・発見の丘など小学生から楽しめる公園になっおり、年間５万人程度の施設利用者があり H30 年 10 月に 50 万人達成をしたもよう。史跡整備と古墳の復元を、期間４年（H16~H20）と約 18 億円をかけて整備したが、年間５万人の利用では活用としては物足りないと感じた。

文化財活用センターにおいては、資産としての文化財を宝の持ち腐れにならないように、様々な事業化が進んでいる。その背景にあるのはデジタル技術の進化であり、その技術を利用応用した文化財のデジタル化である。特に絵画や屏風をはじめとする障壁画などの複製に威力を発揮するだけでなく、デジタルデータを基に３D での立体的な造作物までも可能にする。それらは資源として劣化することなく保存でき、複製を貸与することで多くの文化財ファンや教育に寄与する。

デジタル化の推進は地方では難しいが、利用活用は出来るで出来る限り推進してほしい。大きな建造物、松本で言えば「松本城」「開智学校」などを利用したイベントなどももっと考えられそうだ。

年々増加している不登校児童・生徒に対する支援は緊急の課題だ。長野県の不登校児童・生徒の数は全国第１０位で、国の指定を受け特例校もない。松本市には中間教室しかない。八王子市の高尾学園は理想的である。八王子が出来るなら真似をすればよい、様々な状況や環境の不登校児童・生徒には、大人が結集して知恵を出し合い支援システムを構築してゆく必要がある。

－　以上　－

令和元年８月２８日

松本市議会議長　村　上　幸　雄　様

委　員　上　條　敦　重